

杖道大会レポート

【杖道をみて気になった点】

・袴の色

紺の袴を着て試合に出ている方が大半だったが、審判と一部の選手が白の袴を着て試合にでていた。段の位によって袴の着用色が変わってくるのか、それとも各自で色を選べるのか気になった。

・ひと試合が短い

詳しく計測した訳ではないが、ひと試合が見学していて短いように思えた。私が経験したことある武道では弓道が5分という区切りで決められているが、同じくらいに思えた。

・審判が3人

3人の判定員には疑問を持たなかったが、「右側には二人いるのに左側には1人しかいない」のが気になった。

・組手のタイミング

左右で同時に始めているが、同じ型の場合どちらかがつられて進めているようにも思えた。隣の選手の型を抜かしてはいけないなどルールがあるのか気になった。

右はつられて型を進めているようにも思えたが、左右でバラバラな試合をしているところもあった。

・試合の相手

武道の競技でも、普通の競技でも男女が組んで戦っている(混合)のが珍しく感じた。

相手を直接攻撃しない型の勝負だから成り立つものだと思えた。

【初めてみた感想】

1歩1歩が大きく掛け声と共に力強く太刀を踏み込む姿がかっこよく思えた。

小柄な選手からも大きな表現、威勢に気迫を感じられた。

トーナメント戦が段数ごとに分けられていて、同じ段数の方との対決は力に差が出ないので対等に戦えると思えた。

【勝敗の決め方】

型の完成度のポイント制（審判三人の合計点数の高いものが勝者）によって決まるのではないかと考えられる。

